



年間利用者数六万人突破！

柏市15近隣センター中トップ

市内の近隣センター中で利用者の最も高い数字を示している「増尾」年毎に、地域みんなのより身近な「ふれあいの場」として、暮らしの中に自然な定着の兆しをみせています。

体育館はスポーツに、本館は諸々のサークル活動に、ふるさとづくりの拠点としての期待がふくらむ！



運営委員長 吉田 稔

昭和五十九年度増尾近隣センター運営協議会が五月二十日開催され、昭和五十八年度事業報告並びに決算の承認がなされ、続いて任期満了に伴う役員改選が行なわれ別表の通り決定いたしました。更に昭和五十九年度事業計画並びに歳入予算が別表の通り決定いたしましたのでこれに基づきまして本年度運営をいたしてまいります。

各部の事業の概要につきまして各部長に述べていただくことにします。省略させていただきます。増尾近隣センターは本年開館四

年目を迎えることが出来ました。この間、公民館及び運営委員会主催による講座が開かれ、これを終了された方々による「サークル」が二十八ほど登録され活躍されております。

昨年一ヶ年間に於ける増尾近隣センターの利用者は、延べ六万四千名にのぼり、柏市十五ヶ所の近隣センター中第一番目に多い人数であります。

体育館は体育館利用区分帯によって使用されておりますが、本館の利用につきましては、毎週木曜日の午前中が文化部の時間帯であり、サークル活動も午前中の利用が多く午後には少ないのが現状であります。今後利用者が更に増加の状況にあります。事業の推進と併せて、より多くの方々に有効に利用していただくために努力してまいります。

保健体育部長 藪崎 甚市

昭和五十九年度保健体育事業計画と、予算に基づきまして、本年度事業を有効に推進して参りたいと思っております。

すでに五月におきまして、バレーボール部をはじめ、卓球部、バドミントン部の三つの部におきまして春季大会を盛大に終了することが出来たことは、センター職員をはじめ、各役員のご協力と部員各位のご協力の賜と深く感謝申し上げます。

春季大会に於いて、特筆するものは何と云っても、Aブロック酒井根Aチームの四連覇とBブロック増尾近隣センターチームの初出場初優勝でありました。日頃積み重ねた練習の成果と、チームワークの賜ものであると思っております。

八月には卓球教室が行なわれました。希望者は本号卓球教室募集欄をよく読んで、申込期日や手続きをまちがえないようにして下さい。十月五日には増尾近隣センター体育館に於いて、美容体操部の平素の練習の成果と演技の披露をはじめ、卓球部、バドミントン部、バレーボール部の各々予選に勝ち抜いた選手による決勝戦及び三位決定戦が行なわれます。尚本年は優勝、準優勝、三位の外、各役員と協議の上、個人賞の種類を決定資料に基づき審査の結果、該当者に賞状と賞品を贈ることになりましたのでご期待下さい。

球技祭まではまだ期間もございしますが、体育館役員会を開催し、種々協議決定し、役員並びに部員の方々の協力を賜わなければならぬ点もあつたので、私も与えられた任期中精一杯努力いたす所存でありますのでよろしくお願い申し上げます。

尚本年度中に例年にならうって、一般を対象とした卓球大会も行なう予定になっております。

文化部長 山本 久

文化部では、塚田前文化部長その他の委員各位のご活躍で部としての基礎がととのいましたので本年は、内容を充実したいと思っております。

一、教室 昨年は茶道、墨絵教室を行ないましたが、本年は、多くのかたがたのご意見をうかがい、決めたと思います。

二、文化祭 十一月三日(土)、四日(日)の二日間増尾近隣センターで昨年同様、一般のかたや、小・中学校のご協力を得て、作品を出品していただき展示をいたします。三日は「ふれあいの集い」(詳細は別途お知らせいたします)を開催しますから多数ご来場下さい。

三、囲碁将棋大会 明年一月十七日に開催いたします。(ハンデ戦、上位三位には賞を贈呈します。

福祉部長 戸村 英吉

福祉部は、おとしよりの健康対策と、相互の交流を深めるため、九月八日(土)にセンターのゲートボール場で、各老人クラブ対抗のゲートボール大会を実施致します。又、本年度も昨年同様九月三十日(日)にセンターの体育館で開催される柏市社会福祉協議会主催の「敬老会」の行事、十一月三日(土)にセンターで開催される「ふれあいの集い」の行事等には全面的に協力させていただきます。

福祉関係諸団体の方々と一体となって「生きがいと活力のある福祉社会」を推進することに努力していきたいと思っております。

二、文化祭 十一月三日(土)、四日(日)の二日間増尾近隣センターで昨年同様、一般のかたや、小・中学校のご協力を得て、作品を出品していただき展示をいたします。三日は「ふれあいの集い」(詳細は別途お知らせいたします)を開催しますから多数ご来場下さい。

三、囲碁将棋大会 明年一月十七日に開催いたします。(ハンデ戦、上位三位には賞を贈呈します。

福祉部長 戸村 英吉

福祉部は、おとしよりの健康対策と、相互の交流を深めるため、九月八日(土)にセンターのゲートボール場で、各老人クラブ対抗のゲートボール大会を実施致します。又、本年度も昨年同様九月三十日(日)にセンターで開催される柏市社会福祉協議会主催の「敬老会」の行事、十一月三日(土)にセンターで開催される「ふれあいの集い」の行事等には全面的に協力させていただきます。

ゼロ 6/3日「ゴミ〇の日」 環境美化キャンペーン天晴れの成果！



清掃ボランティア活動、実に二、五〇〇人余の参加

二年前の五十七年、一都九県からなる関東地方知事会で決められた各地方統一環境美化キャンペーンの開始が月末の日曜日がたまたま、五月三日であったので、数字のゴロ合わせが、キャンペーンの主旨にピッタリであることから「ゴミ〇の日」という愛称になった。正式キャンペーン名称は「関東地方環境美化運動の日」となっている。

今年の環境美化キャンペーン「ゴミ〇の日」は、去る六月三日(日)に行われましたが、参加者は実に二、五〇〇人ものほった。沢山の手に清掃ボランティア活動が、将来へ向っての環境浄化への一歩となれば意義は大きい。

この環境美化ボランティア活動に参加した人たちの口からもれた言葉が印象に残った。それは「いつもは気づいていないが、路地の溝や林の中を見ていると空気が汚い、注意の目で見ると空気が汚い、ゴミが、プラスチック、雑誌などなど実に消費の残骸の散乱には驚いた」という内容だった。

身の周りが、このように雑然化していることを身をもって知ることの意義も大きいと思っております。

●参加団体及び人数

①ボランティア団体数：二十団体

②ボランティア人数：二、五〇〇名

③市職員参加人数：十一名

●ゴミ収集量

①空き缶：39袋

②空きビン：16袋

③可燃物：120袋

④不燃物：22袋

昭和59年度柏市増尾近隣センター運営協議会及び運営委員会の新役員決まる。

役職名	氏名	役職名	氏名
運営協議会 会長	東條 博夫	専門部保健体育部長	藪崎 甚市
副会長	友野 忠義	副部長	齊藤 和夫
会 計	岡本 幸子	文化部長	山本 久
会計監査	有馬 松雄	副部長	萩原 政司
運営委員会委員長	山崎喜以子	福祉部長	戸村 英吉
副委員長	神宮 初雄	副部長	福沢 武夫
事務局次長	早川 茂	副部長	松本 亮爾
事務局員	岡島 英治	副部長	金子 行男
事務局員	吉田 稔	副部長	河野健一郎
事務局員	高島 武雄	副部長	望月 苗仙
事務局員	高田 宏信	副部長	
事務局員	加登 貞夫	副部長	
事務局員	是波 正人	副部長	
事務局員	柳原 孝男	副部長	
事務局員	有馬 松雄	副部長	

柏市増尾近隣センター運営協議会 昭和59年度歳入出予算

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
市補助金	3,150,000	運営費	
1. 事務費	250,000	1. 事務費	250,000
2. 事業費	1,000,000	(有) 総会費	40,000
3. 人件費	1,650,000	(有) 会議費	90,000
4. 広報活動費	250,000	(有) 消耗品費	40,000
		(有) 通信費	15,000
		(有) 雑費	65,000
58年度繰越金	275,686		
		2. 事業部	1,250,000
		(有) 広報部	350,000
		(有) 保健体育部	400,000
		(有) 文化部	400,000
		(有) 福祉部	100,000
合 計	3,425,686	3. 人件費	1,650,000
		4. 予備費	275,686
		合 計	3,425,686

増尾近隣センター運営協議会 昭和59年度事業計画

事業名	時期	予算額	担当部
「ふるさと発行」(定期的外臨時号随時発行)	定期 7月号 臨時 正月号	350,000円	広報部
文化祭	11月		
囲碁将棋大会	1月	400,000円	文化部
各種講座	通年		
春季部内大会	5月~6月		
球技祭	10月		
一般大会(地区内一般参加)	1月~2月	400,000円	保健体育部
卓球・バドミントン講習会			
ゲートボール大会	11月		
芸能大会	3月		
他「敬老会、ふれあいの集い」の行事に協力	9月 11月	100,000円	福祉部
合 計		1,250,000円	

秋の球技祭の前哨戦とも言える、春季部内大会も年毎に活気を漲らせ、三部門の各選手面々の大会に挑む真剣な表情が印象的だった。

★春季部内大会レポート

●バレーボール ●卓球 ●バドミントン



Aブロック優勝の酒井根チームA



Bブロック優勝のMKCチーム

バレーボール部

Aブロック優勝 酒井根A
準優勝 とくわ台
三位 土小PTA

Bブロック優勝 MKCチーム
準優勝 はくしん
三位 酒井根B

四年間、無敗23連勝の酒井根チーム 柏市ママさんバレーボール大会でAブロック初優勝

増尾近隣センター開設以来、四年春秋を通じての大会で負けず、酒井根チームが二十三連勝をあげ、五十九年春季大会のAブロック優勝を難なく決めた。

この酒井根チームは、去る六月三十日柏市主催の「ママさんバレーボール大会」で底力を発揮しAブロックで初優勝。晴れて県大会の「菜の花杯争奪戦」への出場権を見事獲得。

柏市ママさんバレーボール大会 二回戦奮戦特筆記

Aブロックで酒井根チームが優勝したのだが、難なくすんなり優勝したわけではない。

二回戦で当近隣センターの所属の「はくしん」と対戦。このゲームが事実上の優勝決定戦といって言い過ぎでない熱戦であった。

一セット「はくしん」勝ち、二セットの中盤までは「はくしん」リードが光った。



各ブロック入賞者の選手

卓球部

●各ブロック入賞者

Aブロック優勝 追田 久子
準優勝 堀口 育子
三位 竹内 優子

Bブロック優勝 奥山 節子
準優勝 丸山由美子
三位 鈴木美也子

Cブロック優勝 佐藤喜美子
準優勝 西山 昭子
三位 石田 文子

Dブロック優勝 河野ふみ子
準優勝 武内 洋子
三位 天野 基代

Eブロック優勝 渡邊 節子
準優勝 飯島 弘子
三位 岡本 正子

Fブロック優勝 板橋万千子



バドミントン部

優勝 酒井 始子
準優勝 網野なをみ
三位 鈴木せつ子
渡辺 静江
小島 京子
平山 幸枝
武藤 恵子
菅原 結子
向井三樹子
斉藤 君子
小林 一枝

青木千恵子
井口成智子
北村 安子
秋田よし子
温井 朗子
山田 淑子
大友さち子



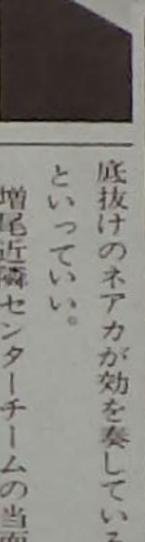
バドミントン部の入賞選手

増尾近隣センター(MKC)チーム結成即優勝の快挙！

チーム結成のジョイント
ひょうきん部長

平川千代さんの談

この春、四月にチーム結成し春季部内大会Bブロックで即優勝と幸先のよいスタートを切ったMKCチーム。



チーム結成の動機は、オーバーフォーティー(四十才代)、つまり若き青春を遠くからひたすら名残惜しんでいる老いらく寸前のナイスミドル(?)を中心にチーム構成を考えたのだが、増尾近隣センターチームと言う性格上老い(?)も若き(?)も混然一体となつて、まずはみんなで心底から楽しめるチームづくりを目指した。

その発起人が、この人—— 剽軽(ひょうけい)の塊、この性質を取り除くと殆ど、なにも取柄のないという平川千代さんである。

平川さん曰く「老若(?)無差別の選手の寄せあつただけにチームワークのコントロールに一縷の不安をもちましたが、どっこい、かつスポーツに情熱を傾けた人達だけあってバレーボールに限らず私的な面(艶っぽいハナシをタシの喋り寄り合いなど)にも抜群のチームワークを発揮するといふ楽しいチーム。当の平川部長の

底抜けのネアカが効を奏しているといっている。

増尾近隣センターチームの当面の目標は、千葉県の花杯大会で優秀でしようかと言う近隣では実力断一の酒井根チーム打倒というから目標も実にヒョウキン的である。しかしどうやら真剣らしい。

第三者から見ると間抜けのチームのサンプルといったら怒られるだろうが、当のチームのコーチが打倒を目指す酒井根チーム部長の高谷さんである。試合になれば敵側にもまるくは、弱点、作戦、スキズの九段チーム。打倒酒井根は遠い目標だが、さて秋の球技祭ではどれだけ喰いさがるかみものである。

しかし勝つことのみが唯一の目標ではないと平川さん曰く、厳しさが、それでも楽しい練習を通じて意識も自然に生れるチームとの和気あいあいの輪が、なにもまして嬉しいと、さて秋の球技祭には天の奇跡を求めてナイスミドルの意気を示め

ユニークな夏祭り(加賀町会)

町会トピックス

加賀町会(世帯数九六〇・会長高頭宏信)では毎年ユニークな夏祭りを実施している。

今年も八月三日・四日・五日の三日間加賀第一公園で実施されるが、この夏祭りのユニークな点は二つある。一つは町内青年館役員が青少年健全育成費を捻出するため、祭りの期間中模擬店を開き、ヤキトリ、焼そば等を町会員に販売し、その収益金を事業費にあてていることで毎年盛況を重ねている。もう一つは毎年祭りの最終日、三時から五時まで増尾駅前から加賀第一公園まで踊りと、みこし大入用・小入用・幼児用」と山車によるはなやかなパレードを行なっていることである。

老人から幼児まで、男も女も楽しく参加するパレードはなかなかの圧巻で市内でも一町会だけではない。この行事をしているのは加賀町会だけではなく、また加賀町の住民が作詞、作曲、唄、踊りの振付けまでした「加賀音頭」も秀逸である。

「わたしの町」という郷土愛の土壌には、人とのふれあい、つまり地域ぐるみのきめ細いコミュニケーション活動の必要性を感じ、町内経費で軽印刷機二十万円を購入。町内広報活動の強化、回覧による詳細な伝達と、縦と横の連携プレーを充実しようというのが狙い。この夏は、老人会と子供会の連合盆踊り大会の企画がなされていると聞く。コミュニケーションをモットーの藤心第三町会。

「町会運営は主婦の手で」

藤心第三町会の運営は、18人の主婦バワーが中核となっている。従来の割りあて制「一年勤め」いやおうなしの運営よりも一歩飛躍している。理由は、留守を守る主婦が「ふるさとづくり」の礎をつくって行かねばという自覚がもたらした結果である。

藤心第三町会